

令和8年度 野田女子高等学校 2学年シラバス

目 次

<教科>	<科目名>	<対象生徒>	<ページ>
国 語	文学国語	全科	1
地理歴史	歴史総合	全科	2
数 学	数 学 A	全科	4
理 科	生物基礎	全科	6
保健体育	体 育	全科	7
	保 健	生活文化科	10
芸 術	音 楽 I	生活文化科 音楽選択者	12
	美 術 I	生活文化科 美術選択者	14
	書 道 I	生活文化科 書道選択者	15
外国語	英語コミュニケーションⅡ	生活文化科・衛生看護科	17
	英語コミュニケーションⅡ	食物科	19
家 庭	課題研究	生活文化科	21
	生活産業情報	生活文化科	22
	保育基礎	生活文化科 保育教養類型	23
	保育実践	生活文化科 保育教養類型	24
	ファッション造形基礎	生活文化科 服飾文化類型	25
	服飾手芸	生活文化科 服飾文化類型	26
	フードデザイン	生活文化科	27
	課題研究	食物科	29
	生活産業情報	食物科	30
	調 理	食物科	32
	栄 養	食物科	34
	食 品	食物科	35
	食品衛生	食物科	36
	公衆衛生	食物科	37
	総合調理実習	食物科	38
	家庭基礎	衛生看護科	40
看 護	基礎看護	衛生看護科	43
	疾病の成り立ちと回復の促進	衛生看護科	45
	健康支援と社会保障制度	衛生看護科	48
	老年看護	衛生看護科	50
	看護臨地実習	衛生看護科	52
<参考資料>	令和7年度入学生教育課程表（各科）		

科目	文学国語	単位	2単位	学年	2学年
使用教科書	新編 文学国語(大修館書店)		副教材等	常用漢字ダブルクリア(尚文出版)	

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。
---------	---

評価の観点		
A:知識・技能	B:思考・判断・表現	C:主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する深めるようすることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	○「そとみとなかみ」 (現代文:随想) ○「ナイン」 (現代文:小説) ○「星取り」 ○「児の飴食ひたること」 (古文:説話) ○「小景異情」 ○「永訣の朝」(詩)	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・「外側と内側」のように物事を対比してとらえ、認識を深める。 ・場面の設定の仕方を通して登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。 ・古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。 ・登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。 ・話のおもしろさや教訓をとらえる。 ・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな構成や形式、表現技法を確認し、その効果について考える。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2	○「かぐや姫の昇天」 (古文:物語) ○「山月記」 (現代文:小説)	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。作品に興味をもち、物語の内容を積極的に読み取ろうとしている。 ・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。 ・漢文訓読町の文章の魅力を味わう。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
3	○「その日東京駅五時二十五分発」 (現代文:小説) ○「はしたなきもの」 ○「手のわろき人の」 (古文:随筆)	・心情や情景描写に注意して読む。 ・「ぼく」が戦争についてどのように感じ、考えているかを読み取る。 ・時代背景や歴史的事実に興味をもち、筆者の考えを読み取ろうとしている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・作者の感性・考え方をとらえる。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

科目	歴史総合	単位	2	学年	2年
使用教科書	歴史総合(実教出版)		副教材等	歴史総合演習ノート(実教出版)	

学習の到達目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
一学期	第1編近代化と私たち 第1章近代化への胎動 第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 第3章欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章帝国主義の時代	<ul style="list-style-type: none"> 17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解している。 17世紀から始まり18世紀から19世紀にかけての日本が4つの口を通して周辺地域との関係に着目して、主題を設定し、周辺地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○	a 小テスト 定期考査 演習ノート ワークシート b 定期考査 レポート 演習ノート ワークシート c 活動の様子 の観察 レポート 口頭発表 ワークシート
二学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向 				a 小テスト 定期考査 演習ノート ワークシート

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
	第5章第一次世界大戦と大衆社会 第6章経済危機と第二次世界大戦	上, 大正デモクラシーと政党政治, 大量消費社会と大衆文化, 教育の普及とマスメディアの発達などを基に, 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響, 日本の参戦の背景と影響などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 関連付けたりするなどして, 第一次世界大戦の性格と惨禍, 日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し, 表現している。第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 関連付けたりするなどして, 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し, 表現している。	○ ○	○ ○	○ ○	b 定期考査 レポート 演習ノート ワークシート c 活動の様子の観察 レポート 口頭発表 ワークシート
三学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章冷戦と脱植民地化 第8章多様化する世界 第9章グローバル化と現代世界	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国, 冷戦下の地域紛争, 先進国の政治の動向, 軍備拡張や核兵器の管理などを基に, 国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携, 計画経済とその波及, 日本の高度経済成長などを基に, 世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。 ・地域紛争の背景や影響, 冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 地域紛争と冷戦の関係, 第三世界の国々の経済政策の特徴, 欧米やソビエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し, 表現している。冷戦が各国経済に及ぼした影響, 地域連携の背景と影響, 日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して, 主題を設定し, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 冷戦下の世界経済や地域連携の特徴, 経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し, 表現している。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 小テスト 定期考査 演習ノート ワークシート b 定期考査 レポート 演習ノート c 活動の様子の観察 レポート 口頭発表 ワークシート

科目	数学A	単位	2	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科2年
使用教科書	新編数学A(実教出版)	副教材等	ステージノート数学A(実教出版)		

学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているかどうか。	数学を活用して事象を論理的の考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度が養われているかどうか。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、活用能力を養う。 ・集合の要素に関する基本的な関係や和の法則積の法則について理解する。 ・順列組合せの意味について理解し、総数を求める。 ・確率の基本的な法則を理解し、それらを用いて事象の確率を求める。 ・独立な試行の意味を理解し、確率を求める。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合についての確率を求める。 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ステージノート提出 ・テスト訂正提出 ・中間考査 ・期末考査
2	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深める。 ・三角形に関する基本的な性質について、成り立つことを証明する。 ・円に関する基本的な性質について、成り立つことを証明する。 ・基本的な図形の性質を図形の作図に活用する。 ・空間における直線や平面の位置関係や、な 	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ステージノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・中間考査 ・期末考査

		す角について理解を深める。				
3	第3章 数学と人間の活動 第1節 数と人間の活動 第2節 図形と人間の活動 第3節 遊びの中の数学	・数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解する。 ・数学史的な話題，数理的なゲームやパズルなどを通して，数学と文化との関わりについて理解を深める。 ・数量や図形に関する概念などを，関心に基づいて発展させ考察する。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし，目的に応じて数学を活用して考察する。	○	○	○	・授業態度 ・ステージノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・学年末考査

科目	生物基礎	単位	2	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科2年
使用教科書	新編 生物基礎(数研出版)	副教材等	新編 生物基礎 準拠 サポートノート(数研出版)		

学習の到達目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 生物の特徴 1 生物の多様性と共通性 2 エネルギーと代謝 3 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1 遺伝情報とDNA	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性について理解する。 多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。 生命活動にはエネルギーが必要であること、生命活動には ATP のエネルギーが利用されていることを理解する。 呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。 DNA の構造を理解し、DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト ノート提出 実験レポート 定期考査
2	第2章 遺伝子とそのはたらき 2 遺伝情報の複製と分配 3 遺伝情報の発現 第3章 ヒトの体内環境の維持 1 体内での遺伝情報と調節 2 体内環境の維持のしくみ 3 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されるしくみを理解する。 DNA の情報を元に、遺伝子が発現されるしくみを理解する。 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 私たちのからだを守る免疫のしくみ、免疫と病気や治療法との関係について理解する。 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト ノート提出 実験レポート 定期考査
3	第4章 生物の多様性と生態系 1 植生と遷移 2 植生の分布とバイオーム 3 生態系と生物の多様性 4 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな植生とその特徴、植生の遷移の過程を理解する。 世界各地および日本に分布するバイオームについて理解する。 生態系内で多様な生物がどのように関係して、存在しているのか理解する。 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。 	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 提出課題 小テスト ノート提出 実験レポート 定期考査

科目	体育	単位	2単位	学年	2年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	
学習の到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力を図るための資質・能力を培うことができるようにする。				
評価の観点					
a,知識・技能		b,思考・判断・表現		c,主体的に学習に取り組む態度	
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けてようとしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養おうとしている。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。	

学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
・体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて理解している。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート ※体ほぐしの運動は技能評価を除く
・器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 技能観察

	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 			○	
<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 (短距離走) (リレー) (長距離走) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走の高いスピードを維持して速く走ることやバトンの受渡しで次走者と前走者の距離を長くすることができる。 ・長距離走では、ペースの変化に対応して走ることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ゴール型 (バスケットボール) (サッカー) ネット型 (バレーボール) (バドミントン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。 ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト ルール等テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・武道 (柔道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などについて理解している。 ・柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト ルール等テスト

	を大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりしている。				
・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 小テスト ※技能評価を除く

科目	保健	単位	1単位	学年	2年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を培うことができるようにする。				
評価の観点					
a,知識・技能	b,思考・判断・表現		c,主体的に学習に取り組む態度		
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けようとしている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える能力を養おうとしている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。		

学	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	生涯を通じる健康 ・生涯の各段階における健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している。 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・定期考査
	生涯を通じる健康 ・労働と健康 健康を支える環境作り ・環境と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・定期考査

3	<p>健康を支える環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と健康 ・食品と健康 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会生活 	<p>それに基づき行われていることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・定期考査
		<ul style="list-style-type: none"> ・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 ・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	

科目	音楽 I	単位	2	学年	2年(生活文化科)
使用教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)		副教材等	なし	

学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く係わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価の観点、年間の活動の流れに見通しや関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。 ・楽しく学習するための音楽室でのルールを理解する。 			○	授業態度 ワークシート 実技テスト
	2 「校歌」	<ul style="list-style-type: none"> ・「校歌」への愛好心をもつとともに、歌唱への意欲を高める。 ・発声の基本を知り、実践することができる。 	○	○	○	
	3 歌唱による表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や楽曲が作曲された背景から曲想を感じ取り、自分なりのイメージをもって歌うことができる。 ・独唱・重唱・合唱における表現を工夫し、その楽しさを味わうことができる。 ・音楽を形づくっている要素の知覚とそれらの働きの感受 	○	○	○	

	4 わが国及び世界の歌唱について ・ 曲種に応じた発声の違い ・ 伝統文化の理解	・ 様々な声による音楽に触れ、その違いを味わいながらそれぞれの文化を理解し、関心を高めることができる。	○	○		
2	5 器楽による表現 ・ クラシックギターの基礎（種類や名称、歴史） ・ クラシックギターの奏法 ・ 簡単なコードによる演奏 ・ 独奏による表現の工夫	・ クラシックギターに親しみ、基礎的な奏法を身につけるとともに、アルペッジョ奏法・ストローク奏法による簡単な演奏ができる。	○	○		授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
	6 創作による表現 ・ いろいろな様式や演奏形態による楽曲の創作	・ 音階を選んで旋律をつくり、それに副旋律や和音を付けて、イメージをもって作曲をすることができる。	○	○	○	
	7 楽器の魅力について	・ 様々な楽器による音楽に触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。	○	○		
3	8 鑑賞 ・ 作曲家の人物像やその時代背景等 ・ 音楽の構造と美しさ ・ 音楽と社会や文化とのかかわり ・ 音楽と他芸術とのかかわり ・ オペラの魅力 ・ ミュージカルの魅力 ・ 世界の音楽 ・ 日本の伝統音楽	・ 音色の特徴や音楽を形づくっている要素、歴史的背景など音楽とかわる様々なことを通じて、楽曲の魅力を多方面から探り、感じることで、積極的、自発的に鑑賞する態度を養う。 ・ オペラやミュージカルに触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。 ・ 日本や郷土の伝統音楽それぞれの特徴を理解して鑑賞することができる。	○	○		授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
			○	○	○	
				○	○	

科目	美術 I	単位	2	学年	2年(生活文化科)
使用教科書	高校生の美術 I (日本文教出版)		副教材等		

学習の到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化と豊かに係わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・色彩の学習 ・絵の具についての話 ・油彩画の技法の説明 ・油彩画実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩についての理論や知識 ・絵の具の種類とその歴史 ・鉛筆の技法とアイデアスケッチ ・技法を体得しながら、色彩の学習と独自の構想とを組み合わせた油彩画を描く。 	○			授業態度 ワークシート 作品
2	<ul style="list-style-type: none"> ・立体とはなんだろう ・身近なものを見直す ・立体的に描く ・粘土による練習 ・彫刻の種類 ・実材による実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の定義と認識を身近な物事や資料を通して学習する。 ・粘土による造形をし、それをデッサンしてみるとともにアイデアを練る。 ・ポリスチレンフォームを材料とし、多様な彫刻技法を駆使して立体造形作品を作る。 	○			授業態度 ワークシート 作品
3	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインと美術 ・デザインと生活 ・生活に生かす美術 ・イラストレーション実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や歴史を例にとり、生活の中のデザインや美術を認識する。 ・ガラス絵やエンボス作りを通して表現的デザインを楽しむ。 	○			授業態度 ワークシート 作品

科目	書道 I	単位	2	学年	2年(生活文化科)
使用教科書	書 I (教育図書)	副教材等			

学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の実現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 書道で学習すること ・南日本硬筆展出品	<ul style="list-style-type: none"> 書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを理解する。 	○		○	授業態度 ワークシート 作品
	2 書写・書道の基本 ・書くときの姿勢 ・用具・用材と扱い方	<ul style="list-style-type: none"> 書くときの姿勢や、基本的な筆の持ち方・構え方を身に付け、目的や場面に応じて適切に使い分ける必要があることを理解する。 用具・用材の種類や、それぞれの特性や用途、製法について理解する。 	○	○	○	
	3 篆刻 ・姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> 印の使い方や種類を理解する。 篆刻に必要な用具を理解する。 教科書を鑑賞し、構想や表現に生かす。 印面の構成について工夫し、姓名印を作成する。 	○		○	
	4 漢字の書 楷書 ・書体の変遷 ・楷書の基本 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 顔氏家廟碑 雁等聖教序	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。 楷書の古典の書体や書風と用筆、運筆と関わりについて理解する。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 楷書の古典の書のよさや美しさを味わい、用筆や字形を意識して臨書する。 	○		○	

2	5 漢字の書 行書 蘭亭序 争坐位稿 風信帖 ・半紙展出品	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の成立過程や性質を再確認し、行書の特徴を理解する。 ・書聖・王羲之と「蘭亭序」の価値を理解し、その書風や文章の内容を理解する。 ・行書の特徴、筆脈・抑揚を意識して臨書する。 	○			授業態度 ワークシート 作品	
	6 漢字仮名交じりの書 ・文化祭展示作品	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。 ・書く言葉を決め、意図に応じた表現を工夫する。 ・用具・用材を工夫し、色紙に創作する。 ・作品鑑賞を行い、学習の成果を交流する。 	○	○	○		
	7 刻字 ・文化祭展示作品	<ul style="list-style-type: none"> ・刻字に必要な用具や使い方を理解する。 ・原稿の作成や彩色までの手順を理解し、意図に応じた作品の構成を工夫する。 ・陰刻か陽刻かを選び、刻字に取り組む。 ・作品鑑賞を行い、学習の成果を交流する。 	○	○	○		○
	8 文字の造形を学ぶ 真草千字文 曹全碑 泰山刻石	<ul style="list-style-type: none"> ・草書・隸書・篆書の成立過程を再確認する。 ・「真草千字文」「曹全碑」「泰山刻石」が作られた経緯や書風について確認し、それぞれの書体の点画や線質の特徴を理解する。 	○	○	○		○
3	9 仮名の書 ・仮名の書の成立 蓬萊切 高野切第三種 創作	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 ・平仮名、片仮名、変体仮名の成立と字源について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・仮名の古筆を鑑賞し、連綿を意識して臨書する。 ・散らし書きなどの、構成方法について理解する。 ・書きたい俳句を選び、三角法構成を基本とした全体構成を考える。 ・短冊・懐紙に書いた作品を鑑賞し、交流する。 	○	○	○	○	授業態度 ワークシート 作品

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ
単位	4	学年	2年（生活文化科・衛生看護科）
教科書・教材等	教科書『Amity English CommunicationⅡ』（開隆堂出版），辞書，ワークシート		

学習の到達目標

- ・日常的・社会的な話題について，必要な情報を聞き取り，話の展開や話し手の意図を把握し，概要や要点を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について，必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握し，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について，多様な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを詳しく話して伝え合うやりとりや，聞いたり読んだりしたことを基に，気持ちなどを論理性に注意して，話して伝え合うことができる。
- ・日常的・社会的な話題について，多様な語句や文を用いて，情報を考え，気持ちなどを論理性に注意して，複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。

評価の観点と規準

	a 知識・技能	b 思考力・判断力・表現力	c 主体的に学習に取り組む態度
観 点	英語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，英語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
規 準	・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現，音声等を理解している。 ・日常生活の話題についての情報や考えを，話して伝える技能を身に付けている。	日常生活のさまざまな場面において，相手の情報や考えを理解しながら，自分の情報や考えをよく理解してもらえるように，時には理由とともに伝えて話している。	日常生活のさまざまな場面において，相手の情報や考えを理解しながら，自分の情報や考えをよく理解してもらえるように工夫している。また，必要があれば改善するなど，粘り強く取り組んでいる。

年間の学習計画

学期	月	考查範囲	学習項目	学習内容	評価の観点		
					a	b	c
第1学期	4		オリエンテーション 休日課題への取り組み方確認	・到達目標や内容，評価の方法を理解する。 ・休日課題問題集への取り組み方を確認する。	/	/	/
	4 ・ 5	中間 考查	Lesson1 Okinawa	・be 動詞・一般動詞の現在形や助動詞を理解する。 ・旅行で行きたい場所を紹介する。	○	○	○
			Lesson2 The History of Japanese Food	・be 動詞・一般動詞の過去形や動名詞を理解する。 ・友だちの好きな食べ物について紹介する。	○	○	○
	6 ・ 7	期末 考查	Lesson3 Volunteer Work	・不定詞や受動態を理解する。 ・参加したいボランティアについて，考えを伝える。	○	○	○
Lesson4 Gacha-gacha			・SVOO の文や SVOC の文を理解する。 ・ガチャガチャにあったらうれしいものを説明する。	○	○	○	

第2学期	9 ・ 10	中間 考 査	Lesson5 Interesting Aquariums	・形式主語 it や形式目的語 it を用いた文を理解する。 ・水族館と動物園のどちらが好きか、理由を述べる。	○	○	○
			Lesson6 The Relay of Ahmed's Life	・知覚動詞や使役動詞を理解する。 ・パレスチナ・イスラエル問題について意見を述べる。	○	○	○
			COMMUNICATE+ 1	・電話やメールで、考えや気持ちをやり取りする。	○	○	○
	11 ・ 12	期 末 考 査	Lesson7 Artificial Intelligence	・接続詞や前置詞の使用方法を理解する。 ・AI ロボットについて、絵を使って説明する。	○	○	○
			Lesson8 The Mystery of Colors	・現在完了や現在完了進行形を理解する。 ・写っている果物の色について、考えを説明する	○	○	○
第3学期	1 ・ 2	学 年 末 考 査	FOCUS+ 1	・文法項目の復習をする。 (形式主語・目的語／知覚動詞・使役動詞など)	/	/	/
			Lesson9 Street Performers	・分詞の形容詞的用法や分詞構文を理解する。 ・好きなミュージシャンや好きな曲について、考えや 気持ちを書いて伝える。	○	○	○
	3						

課題・提出物

- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1. レッソンの予習，復習，授業で使用するファイル(ノート) | 2. 休日課題 (問題集 Baton Pass) の提出 |
| 3. 長期休業中の課題 (問題集 Baton Pass 他) の提出 | 4. その他 (パフォーマンステストなど) |

評価方法

定期考査・出席状況・課題考査・小テスト・課題の提出状況や活動への参加状況を基に評価する。定期考査を年5回、課題考査を2回行う。学期に1～2回程度、授業中にパフォーマンステストを行う。基礎力測定診断や課題考査では、未読の英文を出題することもある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」の5領域を総合的に評価する。

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ
単位	2	学年	2年（食物科）
教科書・教材等	教科書『Amity English CommunicationⅡ』（開隆堂出版）、辞書、ワークシート		

学習の到達目標

- ・日常的・社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやりとりや、聞いたり読んだりしたことを基に、気持ちなどを論理性に注意して、話して伝え合うことができる。
- ・日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを論理性に注意して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。

評価の観点と規準

	a 知識・技能	b 思考力・判断力・表現力	c 主体的に学習に取り組む態度
観 点	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
規 準	・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・日常生活の話題についての情報や考えを、話して伝える技能を身に付けている。	日常生活のさまざまな場面において、相手の情報や考えを理解しながら、自分の情報や考えをよく理解してもらえるように、時には理由とともに伝えて話している。	日常生活のさまざまな場面において、相手の情報や考えを理解しながら、自分の情報や考えをよく理解してもらえるように工夫している。また、必要があれば改善するなど、粘り強く取り組んでいる。

年間の学習計画

学期	月	考查範囲	学習項目	学習内容	評価の観点		
					a	b	c
第1学期	4		オリエンテーション 休日課題への取り組み方確認	・到達目標や内容、評価の方法を理解する。 ・休日課題問題集への取り組み方を確認する。	/	/	/
	5	中間	Lesson1 Okinawa	・be 動詞・一般動詞の現在形や助動詞を理解する。 ・旅行で行きたい場所を紹介する。	○	○	○
	6 ・ 7	期末	Lesson2 The History of Japanese Food	・be 動詞・一般動詞の過去形や動名詞を理解する。 ・友だちの好きな食べ物について紹介する。	○	○	○
第2学期	9	中間	Lesson3 Volunteer Work	・不定詞や受動態を理解する。 ・参加したいボランティアについて、考えを伝える。	○	○	○
	10	期	Lesson4 Gacha-gacha	・SVOO の文や SVOC の文を理解する。 ・ガチャガチャにあったらうれしいものを説明する。	○	○	○
	11	末	Lesson5 Interesting Aquariums	・形式主語 it や形式目的語 it を用いた文を理解する。 ・水族館と動物園のどちらが好きか、理由を述べる。	○	○	○

第 3 学 期	12	学 年 末	Lesson6	・ 知覚動詞や使役動詞を理解する。	○	○	○
	・		The Relay of Ahmed's Life	・ パレスチナ・イスラエル問題について意見を述べる。	○	○	○
	1		COMMUNICATE+ 1	・ 電話やメールで、考えや気持ちをやり取りする。	○	○	○
	2		Lesson7	・ 接続詞や前置詞の使用方法を理解する。	○	○	○
・	3	Artificial Intelligence	・ AI ロボットについて、絵を使って説明する。	○	○	○	

課題・提出物

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1. レッソンの予習，復習，授業で使用するファイル(ノート) | 2. 休日課題（問題集 Baton Pass）の提出 |
| 3. 長期休業中の課題（問題集 Baton Pass 他）の提出 | 4. その他（パフォーマンステストなど） |

評価方法

定期考査・出席状況・課題考査・小テスト・課題の提出状況や活動への参加状況を基に評価する。定期考査を年5回、課題考査を2回行う。学期に1～2回程度、授業中にパフォーマンステストを行う。基礎力測定診断や課題考査では、未読の英文を出題することもある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域を総合的に評価する。

科目	課題研究	単位	1単位	学年	2学年
使用教科書	なし		副教材等	なし	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技術	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人としての解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指し自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	知	思	態	評価方法
1	調査, 研究, 実験	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・家庭科で学習した知識・技術を生かし、テーマを設定することを理解する。 ○課題設定 ・類型別に、興味・関心のある分野の職業や資格に関連する課題を決定する。 ○研究計画 ・課題解決のため、どのような順序や方法で学習を進めていくか検討する。 ○職業研究 	○ ○	○ ○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・レポート
2	調査, 研究, 実験	<ul style="list-style-type: none"> ○地域課題解決型学習 ・地域課題をとらえる目的, 方法について調べ, 聞き取り調査やアンケートなど自分でテーマを決めて実施する。 ○職業理解の深化 ・進路希望や興味・関心に応じて家庭に関する専門分野の学習成果のまとめと課題の検討。 ・3年次の学習に生かす。 ・調査研究活動の経過をレポートにまとめる。 ・プレゼンテーション準備 ・まとめ及び資料作成 ・成果発表会及び報告冊子作成 	○ ○	○ ○	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・レポート ・プレゼンテーション ・発表態度
3	産業現場等における実習	<ul style="list-style-type: none"> ○職業体験学習 ・教科で学んだことを生かす。 ・社会人としてのマナーを会得する。 ・将来の進路や職業について具体的にイメージし, 目標につなげる。 ・職業観, 勤労観などを体得する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・実習態度 ・ワークシート ・レポート

科目	生活産業情報	単位	3単位	学年	2学年
使用教科書	生活産業情報 (実教出版)	副教材等	日本語ワープロ検定試験模擬問題集2・準2級編 情報処理技能検定試験表計算模擬問題集2・準2級編		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

種	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	生活産業情報を学ぶにあたってのオリエンテーション	・ 学習の意義や内容、学習方法や評価の方法、校内の機器の利用における注意事項を理解する。				
	(1) コンピュータとプログラミング ア モデル化とシミュレーション イ アルゴリズムとプログラミング	・モデル化とシミュレーションの方法、アルゴリズムの表現方法やプログラミングについて理解し、関連する技術を身に付ける。 ・生活産業に関する課題を発見し、その解決に向けて目的に応じたアルゴリズムを表現し、モデル化やシミュレーションを適切に行うなど工夫する。 ・コンピュータとプログラミングについて自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・小テスト ・定期考査 ・実技テスト
	(2) 各種アプリケーションの基本操作① ア プログラミングソフトの利用 イ 表計算ソフトの利用	・表計算マクロ言語の概要について理解し、プログラミングソフトの操作方法を習得する。 ・表計算ソフトの機能を理解し、操作方法を習得する。 ・例題に沿って課題を作成するよう自ら取り組んでいる。	○ ○		○	
2	(3) 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン ア 目的に応じたコミュニケーション イ 情報コンテンツと情報デザイン	・様々なメディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を理解し、情報コンテンツ作成に関連する技術を身に付ける。 ・目的や対象に応じたコミュニケーションの方法や、情報デザインについて課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・生活産業におけるコミュニケーションと情報デザインについて自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○	・授業態度 ・小テスト ・定期考査 ・実技テスト
	(4) 各種アプリケーションの基本操作② ア 動画に関連したアプリケーションの利用 イ Webページ作成ソフトの利用	・動画編集ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・Webページ作成ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・例題に沿って課題を作成するよう自ら取り組んでいる。	○ ○		○	
3	(5) 生活産業に関連した情報デザイン ア 衣・食・住生活分野での利用 イ ヒューマンサービス関連分野での利用 ウ 消費生活関連分野での利用	・テーマに沿って必要な情報を収集し、アプリケーションを効果的に利用することができる。 ・すべての人に情報が伝わるためにはどのように表現すべきか、どのような工夫が必要かを考察する。 ・積極的に課題に取り組んでいる。	○	○	○	・授業態度 ・定期考査 ・レポート

科目	保育基礎	単位	2単位	学年	2年生
使用教科書	保育基礎（実教出版）	副教材等	全国高等学校家庭科保育検定 過去問題集 （全国高等学校家庭科教育振興会）		

学習の到達目標	子どもの発達の特長や発達過程，保育などに関する知識と技術を習得し，子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。
---------	--

評価の観点		
a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴について理解し，関連する技術を身に付けている。	子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び，保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	時間数	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	C	評価方法
1	20 4	○子どもの保育 ア保育の意義	・乳幼児期においては，生命の保持が図られ安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより，発達に必要な体験を得ていくものであることを理解する。	○			・単元テスト ・授業態度 ・プリント ・課題
	10	イ保育の方法	・発達時期の特性を考慮した保育の工夫について理解する。	○	○		・調べ学習 ・作品
	6	ウ保育の環境	・子どもの健やかな発達のために適切な保育環境をどのように創意工夫していくか考える。	○	○	○	・振り返り ・実技テスト
	30 10	○子どもの発達 ア子どもの発達の特性	・発達には，順序性や連続性があることや個人差があることについて理解する。 ・誕生から幼児期までの子どもの身体発育，運動機能，認知機能，情緒，人間関係などの発達の様々な側面が相互に関連し合っていることを理解する。	○	○		
	10	イ乳児期の発達	・愛着の発達が，その後の様々な発達に影響を与えることを理解する。 ・乳児期の発達の特徴を理解した上で乳児とその保護者と触れ合い，乳児の保育の重要な課題について考える。	○	○	○	
	10	ウ幼児期の発達	・幼児期の発達の特徴を理解した上で幼児と触れ合い，集団としての活動の充実が図られるような環境をどのように工夫するかについて考える。	○	○		
	20 10	○子どもの生活と養護 ア乳幼児期の生活の特徴と養護	・健康を保持増進し，順調な成長を促す上で，子どもの発達に応じた適切な養護が重要であることを理解する。	○	○		
	10	イ生活習慣の形成	・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解する。	○	○	○	
	2						
	3						

科目	保育実践	単位	4単位	学年	2年生
使用教科書	保育実践 (実教出版)	副教材等	「これだけは知ってほしい楽典はじめの一步」 「標準バイエルピアノ教則本」 「こどものうた200」		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
子供の表現活動の意義と重要性を理解し、子供の様々な表現活動を促す技術を身に付けている。	子供の様々な表現活動について問題を見いだして課題を設定している。	子供の表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	時間数	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1							
2	80	○子供の表現活動と保育	<ul style="list-style-type: none"> 子供の造形・描画表現が子供の創造性を育てる上で重要な活動であることについて理解する。 子供の描画には発達の順序があること、発達に即した援助の方法について理解する。 紙だけでなく牛乳パックや布、食品トレイや様々な空き容器など多様な素材を用いた壁面構成などの造形表現活動を習得する。 絵本やお話に親しむことが子供の想像力と思考力を高める活動であることを理解する。 言葉やイメージが豊かになるような援助の方法を理解する。 絵本やお話の他にも紙芝居、人形劇、パネルシアターの設定と展開を考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 授業態度 プリント 課題 調べ学習 作品 振り返り 実技テスト
	40	ア造形表現活動		○	○		
	40	イ言語表現活動			○	○	
3	60	ウ音楽・身体表現活動	<ul style="list-style-type: none"> 子供にとっての音楽・身体表現の重要性を扱い、子供が音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりする活動を援助する方法を習得する。 ピアノやその他の楽器を用いた伴奏などを習得する。 情報手段を用いた活動について、身近な事例を扱い、子供の発達や心身への影響を十分に考慮しながら、情報手段を保育に活用する。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 授業態度 プリント 課題 調べ学習 作品 振り返り 実技テスト
	50			○			
	10	エ情報手段などを活用した活動			○	○	

科目	ファッション造形基礎	単位	4単位	学年	2学年
使用教科書	ファッション造形基礎(実教出版)		副教材等	家庭科問題集被服編(全国高等学校家庭科教育振興会)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	3 洋服製作の基礎 ア 採寸 イ 型紙の基本 ウ デザインと材料の選択 エ 裁断 オ 仮縫いと補正 カ 縫製 キ 仕上げ ク 着装	(3) 洋服製作の基礎(シャツ・ブラウス) ① 洋服製作の基礎について理解し、関連する技術を身に付ける。 ② 製作する被服の用途に適した被服材料の性能や製作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・布地や作品に応じた適切な仕上げができる。 ③ 洋服製作の基礎について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。 (3) 洋服製作の基礎(裏つきスカート) ① 洋服製作の基礎について理解し、関連する技術を身に付ける。 ・人体の構造や機能、寸法や体型と被服のかかわりについて学び、立体構成と平面構成の特徴について理解する。	○	○	○	単元テスト 小テスト 実技テスト シャツ・ブラウス
2	1 衣服の構成 イ 立体構成衣服と平面構成衣服 (4)和服制作の基礎 ア 和服の構成と名称 イ 材料の選択	② 洋服製作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ③ 洋服製作の基礎について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。 (1) 被服の構成 ① 人体構造と被服の関係性、被服の構成による特徴の違いなどを理解する。 ② 被服の構成方法による相違や動作とゆりみの関係性について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・ドレーピングの実習をとおして、立体構成の基本的な理論と技術を学ぶ。 ③ 被服の構成について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。 (4) 和服製作の基礎(浴衣) ① 和服製作の基礎について理解し、関連する技術を身に付ける。	○	○	○	単元テスト 小テスト 実技テスト スカート ピンワーク
3	ウ 寸法の見積もりと裁断 エ 縫製 オ 仕上げ カ 着装	② 製作する被服の用途に適した被服材料の性能や製作に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・布地や作品に応じた適切な仕上げができる。 ③ 和服製作の基礎について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○	単元テスト 小テスト 実技テスト 浴衣 デザイン画

科目	服飾手芸	単位	2単位	学年	2学年
使用教科書	ファッション造形(実教出版)		副教材等		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を養う。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 手芸の種類と特徴 2服飾材料としての各種手芸の技法 (1) 刺繍 ①刺繍の種類と特徴 ②フランス刺繍	<ul style="list-style-type: none"> 手芸の種類と特徴について、地域の伝統文化や歴史などと関連させて、その技法や特徴を理解する。 刺繍の種類とその特徴、基礎的な刺し方の技法、仕上げについて理解し、基礎的な技術を身に付ける。 刺繍の技法の製作工程や表現方法について課題を発見し、その解決方法について考察する。 刺繍の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 実技テスト 作品 授業の取組
	(2)染色 ①染色と染料 ②手芸による主な染色法 ③染料で染める	<ul style="list-style-type: none"> 染色の種類とその特徴、材料と用具、デザイン、基礎的な染色の技法、仕上げについて理解し、基礎的な技術を身に付ける。 染色の技法の製作工程や表現方法について課題を発見し、その解決方法について考察する。 	○	○	○	
2	④染めの技法 (3) 編み物 ①編み物の種類と特徴 ②編み物の基本 ③棒針編みの基礎 ④かぎ針編みの基礎	<ul style="list-style-type: none"> 染色の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 編みの種類とその特徴、材料と用具、デザインとサイズの取り方、基礎的な編み方の技法、仕上げについて理解し、基礎的な技術を身に付ける。 編み物の技法の製作工程や表現方法について課題を発見し、その解決方法について考察する。 編み物の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 実技テスト 作品 授業の取組
	(4)織物 ①織物の種類と特徴 ②裂き織の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 織物の種類とその特徴、技法について理解し、基礎的な技術を身に付ける。 織物の製作工程や表現方法について課題を発見し、その解決方法について考察する。 織物の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 実技テスト 作品 授業の取組

科目	フードデザイン	単位	2単位	学年	2 学年
使用教科書	フードデザイン(実教出版)		副教材等	ニューライブラリー 家庭科・資料+成分表 (実教出版)	

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ち、総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、家庭や地域で食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や分家庭的な役割を果たしていることが理解できる。 ・現状の食生活について、問題点が理解できる。 ・現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ・心身共に健康で豊かな食生活を営むための食事の在り方について嗜好を深め、自分の食生活の現状を判断することができる。 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる。 	○ ○ ○	 ○	 ○	ワークシート 単元テスト
	2章 栄養素の働きと食事計画 1節 栄養素の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらきと消化・吸収について理解している。 ・食品ごとのアミノ酸スコアを計算することができる。 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる。 ・機能性成分にはどのようなものがあるか知ろうとしている。 ・1日に必要なエネルギー量を求めることができる。 	○ ○ ○	 ○	 ○	ワークシート 単元テスト きゅうり切り 実技テスト 調理実習の記録
	3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持つようとしている。 	○ ○	 ○ ○ ○	 ○	
2	6章 フードデザイン実習 1節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択できる。 	○	 ○		ワークシート 調理実習の記録
	4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的とおいしさに関わる要因について理解している。 	○			ワークシート 単元テスト

	<p>2節 調理操作</p> <p>3節 調味操作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などと関連させて理解できる。 ・日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 ・食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度などに関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりを与える影響について思考を深めることができる。 ・調味加熱やその他の調理操作が、料理のできあがりに大きく影響することを考えることができる。 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。 	○	○	○	○	<p>夏季課題発表</p> <p>調理実習の記録</p> <p>実技評価</p>
3	<p>2章 栄養素の働きと食事計画</p> <p>2節 ライフステージと栄養</p> <p>3節 食事摂取基準と食事計画</p> <p>3章 食品の特徴・表示・安全</p> <p>2節 食品の生産と流通</p> <p>3節 食品の選択と表示</p> <p>4節 食品の衛生と安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージの栄養の特徴、食生活の留意事項について理解できる。 ・各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。 ・エネルギーや各栄養素の食事摂取基準について理解できる。 ・実際の栄養摂取量と「日本人の食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」から、適切な食事計画について考えることができる。 ・食生活の現状とも関わらせながら、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などを活用し、ライフステージに応じた食事計画にいかそうとしている。 ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけ、よりよい食品を見きわめ、購入できる。 ・輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択ができる。 ・食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 ・食品の生産・流通・加工・表示・衛生などの現状に関心を持つようとしている。 	○	○	○	○	<p>ワークシート</p> <p>単元テスト</p> <p>冬季課題</p> <p>郷土料理実習記録</p>
	<p>6章 フードデザイン実習</p> <p>3項 供応食・行事食</p> <p>4項 テーマ設定と調理実習</p> <p>5章 料理様式とテーブルコーディネート</p> <p>1節 料理様式と献立</p> <p>2節 テーブルコーディネート</p> <p>7章 食育</p> <p>1節 食育の意義と推進活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解し、献立をすることができる。 ・食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。 ・様式別の食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを身につけることができる。 ・食器・盛りつけ・テーブルクロス・照明などについて、目的に応じた適切な選択ができる。 ・季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。 ・食育基本法の理念を知り、食育に関するさまざまな活動が行われていることを理解できる。 ・食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。 ・食育の意義と活動に関心を持つようとしている。 	○	○	○	○	<p>ワークシート</p> <p>単元テスト</p> <p>調理実習の記録</p> <p>製菓講座実習記録</p> <p>テーブルマナー講座記録</p> <p>お弁当献立作成発表</p>

科目	課題研究	単位	1単位	学年	2学年
使用教科書	なし		副教材等	なし	

学習の到達目標	食産業の各分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。
---------	--

評価の観点		
a 知識・技術	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
食産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、専門的な知識を身に付けている。	設定した課題解決のため、これまで学習した専門的な知識を生かした方法を選択し、創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指し自ら学び、食産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	知	思	態	評価方法
1	調査、研究、実験	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション ・家庭科で学習した知識・技術を生かし、テーマを設定することを理解する。 ○ 課題設定 ・郷土理解のための食に関する課題を設定する。 ・研究計画 ・調べ学習やレシピ開発を行う。 ・地域の小学生との郷土料理実施計画を立てる ・地域の小学生を対象に食へのアンケート実施 ○ 職業体験学習 ・社会人としてのマナーを会得する。 ・将来の進路や職業について具体的にイメージし、目標につなげる。 ・職業観、勤労観などを体得する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・実習態度 ・ワークシート ・レポート
2	調査、研究、実験 ・実習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題解決型学習 ・地域特産の強みを活かすコンクールへの応募 ○ 地域の小学生との交流実習 ・調査研究活動の経過をレポートにまとめる。 ・アンケート集計から適した実習内容検討 ・プレゼンテーション準備 ・資料作成 ・交流実習 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・実習態度 ・ワークシート ・レポート ・プレゼンテーション ・発表態度 ・コンクール結果
3	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題解決型学習のまとめ ・3年次の学習に生かす。 ・1、2学期に取り組んだ課題のまとめ ・成果発表会及び報告冊子作製 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・レポート

科目	生活産業情報	単位	2単位	学年	食物科2年
使用教科書	生活産業情報(実教出版)	副教材等	表計算 模擬問題集3・4級, 文書デザイン 模擬問題集3・4級(日本情報処理検定協会)		

学習の到達目標	生活産業における情報の意義や役割を理解し、情報の処理に関する知識と技術を習得するとともに、生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報および情報技術を活用する方法について、体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的葛創造的に解決する力を身につけている。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上を社会の発展に主体的かつ共働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	生活産業情報を学ぶにあたってのオリエンテーション	・生活産業情報」を学ぶにあたり、学習の意義や内容、学習方法や評価の方法、校内の設備や機器の利用における注意事項などを理解する。	○			ワークシート
	第1章 情報化の進展と社会 (1) 情報化の進展と社会	・情報通信ネットワークを活用した生活情報の進展と、今後予想される情報社会についての概要を理解する。 ・情報化が進展したことによる私たちの生活や産業における変化と、問題点について理解したうえで、解決に向けて考察する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 授業中課題
	(2) 生活産業における情報化の進展	・生活産業の各分野で、情報技術がどのように利用されているかを、具体例とともに理解する。				
	第2章 情報モラルとセキュリティ (1) 情報モラルとマナー	・ネットワーク社会のモラルとマナーについて、具体的な事例を踏まえて理解する。 ・個人情報や知的財産権について理解する。自分自身の情報管理の重要性とともに、日常生活の中で侵害する側になっていないか確認する。 ・情報関連の法律の概要を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 授業中課題
(2) 情報通信ネットワークのしくみとセキュリティ管理	・サイバー犯罪対策としてのセキュリティ管理を理解し、日常レベルで個々人が実践すべきセキュリティ管理について考察する。					
第3章 コンピュータとプログラミング (1) コンピュータの基本構成	・情報機器の基本構成(ハード・ソフト)と、それぞれの機能と動作を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査	
(2) モデル化とシミュレーション	・モデル化とシミュレーションの概要を理解し、具体的な活用例について学ぶ。				授業中課題	

	第5章 各種アプリケーションの基本操作 (1) 文書作成ソフトの利用	・文書作成ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
2	第3章 コンピュータとプログラミング (3) アルゴリズムとフローチャート	・プログラミングに関する基礎的・基本的な知識を学び、簡単なアルゴリズムで表現した処理手順を実行することで、自動的に処理ができることを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 授業中課題
	第4章 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン (1) メディアの特性 (2) コミュニケーション (3) 情報デザインの課題	・様々なメディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を理解する。 ・情報コンテンツの作成にあたり、メディアの特性を理解し、伝えたい情報を目的や対象をふまえた工夫が情報デザインに求められることを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 授業中課題
	第5章 各種アプリケーションの基本操作 (2) 表計算ソフトの利用 (3) プログラミングソフトの利用 (4) プレゼンテーションソフトの利用	・表計算ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・グラフの適切な選択ができるようになる。 ・適切な関数を選択し、利用できるようになる。 ・表計算ソフトに付随するマクロ言語により、プログラミングソフトの概要を理解する。 ・プログラミングソフトの操作方法を習得する。 ・プレゼンテーションソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 授業中課題
	(5) 画像処理ソフトの利用 (6) 動画に関連したアプリケーションの利用 (7) Web ページ作成ソフトの利用	・画像処理ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・動画編集ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。 ・Web ページ作成ソフトの概要を理解し、操作方法を習得する。				ワークシート 定期考査 課題レポート
3	第6章 生活産業に関連した情報デザイン (1) 食生活関連分野での利用 (2) 衣生活関連分野での利用 (3) 住生活関連分野での利用 (4) ヒューマンサービス関連分野での利用 (5) 消費生活関連分野での利用	・それぞれの分野、対象、目的を明確にした情報コンテンツの作成を行う。 ・関連した情報を収集・処理・分析し、表現することができるようになる。 ・伝えたい情報を効果的に発信する方法について理解し、それを実践できる技術を身につける。 ・各種アプリケーションを必要に応じて使い分け、効果的に利用することができる。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題レポート

科目	調理	単位	5単位	学年	2年
使用教科書	<ul style="list-style-type: none"> 調理理論と食文化概論（新調理師養成教育全書4） 調理実習（新調理師養成教育全書5） 総合調理実習（新調理師養成教育全書6） 				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> オールガイド食品成分表，実習プリント 				
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 調理理論と技術の基礎と応用 目的別の献立と調理 以上について，講義、実験・実習を行う。 様式別の献立と調理 食事環境とサービス 				

評価の観点		
a, 知識・技術	b, 思考・判断・表現	c, 主体的に学習に取り組む態度
調理理論、調理実習に関する知識を 実技と関連付けながら理解している とともに、実習において計画立案や課 題を解決する技術を身につけてい る。 調理師に必要な基本的な技術を身に つけている。	家庭や社会における食生活に関する問 題について、解決策を構想し、実践を評 価・改善し、考察したことを解決につな げる力を身につけている。 料理にあった材料の切り方を習得し、 調理師として必要な判断力が身に付 いている。	さまざまな人と協働し、よりよい社会 の構築に向けて食生活を中心に、課題 について主体的に取り組んだり、振り 返って改善したりして自分や家族、地 域の生活を創造し実践しようとしてい る。

年間の学習計画（理論）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	調理理論 ⁴ 第3章(P34-66) [3] 食品の学習調理科学 1 植物性食品 ①穀物 ②いもおよびでんぷん類 ③砂糖 ④豆類 ⑤種実類 総合調理実習 ⁶ 第1章(P2-17) [1] 調理施設・設備 1 調理施設 ①建物（施設）概要 ②建物設備概要 ③作業環境 ④調理施設のトレンド 西洋料理テーブルマナー実習	<ul style="list-style-type: none"> 食品の性状を踏まえて調理課程 化学的にとらえ、調理技術を習得 する。 主な植物性食品の成分と調理上 の性質を理解し、食品の種類や調 理の目的に応じた取扱いをでき るようにする。 調理施設の機能性や性能、清潔 性、安全性、経済性、快適性およ び使いやすさなど基礎を学び理 解する。 	○	○	○	定期考査 提出物 出席 平常点
2	総合調理実習 ⁶ 第1章(P18-42) 第2章(P44-47) (P58-60) [1] 調理施設・設備 2 調理設備 ①基本計画のポイント ②調理機器の分類 ③調理施設のエネルギー ④調理施設の種類と特徴 ⑤調理機器の使い方と 清掃、手入れ 3 調理システム ①調理システムとは ②調理システムの種類と特徴 ③業務別調理システムの適合性 [2] 集団調理実習	<ul style="list-style-type: none"> 調理施設の機能性や性能、清潔 性、安全性、経済性、快適性およ び使いやすさなど基礎を理解す る。 特定多数人への食事サービスに ついて集団調理の意義を学び理 解する。 	○	○	○	定期考査 提出物 出席 平常点

2	<p>1 集団調理実習にあたって</p> <p>①集団調理実習の目的 ②集団調理実習の内容 ③実習の心構え ④班編制</p> <p>3 大量調理の特徴と調理技術</p> <p>①大量調理の特徴 ②大量調理の調理技法</p> <p>調理理論④ 第3章(P67-128)</p> <p>1 植物性食品</p> <p>⑥野菜類 ⑦果実類 ⑧きのこ類 ⑨藻類</p>					
3	<p>2 動物性食品</p> <p>①魚介類 ②食肉類 ③卵類 ④乳類</p> <p>3 その他の食品</p> <p>①油脂類 ②調味料 ③ゲル状食品</p>	<p>・食品の性状を踏まえて調理課程を化学的にとらえ、調理技術の習得ができるようになる。</p> <p>・主な植物性食品の成分と調理上の性質を理解し、食品の種類や調理の目的に応じた取扱いをできるようにする。</p>	○	○	○	定期考査 提出物 出席 平常点

年間の学習計画（実習）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<p>様式別の日常食の調理</p> <p>○各種飾り切り</p> <p>○各様式による供応食の調理</p> <p>○基本料理の技術習得</p>	<p>・各様式の代表的な献立について調理法・調理上の要点について実習を通して理解し、将来の調理師として技術を身につける。</p> <p>・日常食の献立に応じた材料選択、作業計画、調理、盛りつけ、配膳をできる実践的力をつける。</p> <p>・基本の切り方試験</p> <p>・全調協実技検定（グレード2）</p>	○	○	○	実技試験 定期考査 提出物 出席 平常点
2	<p>文化祭食物バザーの実習</p> <p>日常食並びに供応食の実習</p> <p>○各種飾り切り</p> <p>○各様式による供応食の調理</p> <p>○基本料理の技術習得</p>	<p>・文化祭食物バザーの売品研究を通して売品としての調理の特徴や注意点について理解し、価格にふさわしい安全な料理を提供する。</p> <p>・文化祭は日常食についての学習の成果の発表と集団調理実習の機会と提供サービスの実施をする。</p> <p>・日常的な材料を用いた飾り切りを修得する。</p> <p>・目的に応じた供応食とその献立に応じた材料選択、作業計画、調理、盛りつけ、配膳をすることのできる基礎力を身につける。</p> <p>・和食、洋食、中華などの基本的な調理操作を用いた日常食の実習を通して、基礎的な調理技術を身につける。</p> <p>・一般的な献立の日常食および供応食（行事食）実習を通して、調理技術の向上と実践力を身につける。</p> <p>・基本の切り方試験</p> <p>・全調協実技検定（グレード2）</p>	○	○	○	実技試験 定期考査 提出物 出席 平常点
3	<p>様式別による日常食並びに供応食の実習</p> <p>○各様式の基本調理技術に基づく応用</p>	<p>・一般的な献立の日常食および供応食（行事食）実習を通して、調理技術の向上と実践力を身につける。</p> <p>・基本技術を身につけ、調理技術を活かした応用力を身につける。</p> <p>・基本の飾り切り方試験</p> <p>・全調協実技検定（グレード2）</p>	○	○	○	実技試験 定期考査 提出物 出席 平常点

科目	栄養	単位	1	学年	食物科 2年
使用教科書	新 調理師養成教育全書 必修編2 食品と栄養の特性(全国調理師養成施設協会)		副教材等	カラーグラフ成分表(実教出版)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第2章 消化と吸収 (1) 食品の摂取 ①生理的要求 ②心理的要求 ③栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・食物が消化され吸収される仕組みについて、咀嚼及び消化管の運動の基礎的な事項を理解する。 ・味覚、嗅覚、触覚、聴覚、視覚と心理との関与を理解する。 ・栄養素を摂取する必要性を理解する。 	○		○	定期考査 課題プリント
2	(2) 栄養素の消化・吸収・代謝 ①栄養素の消化	<ul style="list-style-type: none"> ・各栄養素が、人体のなかでどのように消化吸收されるのか理解する。 ・消化酵素と消化を理解する。 	○	○	○	定期考査 課題プリント
3	②栄養素の吸収 ③栄養素の代謝	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の吸収経路、各栄養素や器官の吸収を理解する。 ・三大栄養素の代謝経路を理解する。 	○	○	○	定期考査 課題プリント

科目	食品	単位	1	学年	食物科 2年
使用教科書	新調理師養成教育全集 2 食品と栄養の特性 (全国調理師養成施設協会)		副教材等	オールガイド食品成分表 (実教出版)	

学習の到達目標	食品の分類とその特徴, 食品の表示, 食品の加工と貯蔵などに関する知識と技術を習得し, 食品を適切に選択, 活用して食生活の充実向上を図る能力と態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a, 知識・技能	b, 思考・判断・表現	c, 主体的に学習に取り組む態度
調理師として食品についての情報を収集し, 調理に生かせる知識・技能を身につけている。	食品の特徴をとらえて調理に活用したり, 食材の組合せや食材の選択したりする方法などを理解した上で, どう選択するかなどの能力を身につけている。	授業に対して真面目に取り組む態度が身についている。また, 食生活に関するニュースに関心を持ち, 課題解決に主体的に取り組むことができ, 振り返って改善しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第4章 食品の特徴と性質 第1節 植物性食品とその加工品 (1) 穀類 (2) いもおよびでんぷん類 (3) 砂糖および甘味料 (4) 豆類 (5) 種実類	・代表的な食品を中心に, 栄養的特徴や調理上の性質, 利用法などを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
2	(6) 野菜類 (7) 果実類 (8) きのこと類 (9) 藻類 第2節 動物性食品後その加工食品 (1) 魚介類 (2) 食肉類	・代表的な食品を中心に, 栄養的特徴や調理上の性質, 利用法などを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
3	(3) 卵類 (4) 乳類 第3節 その他の食品 (1) 油脂類 (2) 菓子類 (3) 嗜好飲料類	・代表的な食品を中心に, 栄養的特徴や調理上の性質, 利用法などを理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査

科目	食品衛生	単位	2	学年	食物科 2年
使用教科書	新調理師養成教育全集 必修編 3 食品の安全と衛生 (全国調理師養成施設協会)		副教材等	学習プリント	

学習の到達目標	食生活の安全と食品衛生対策など、食品衛生に関する専門的な知識と技術を習得し、調理師として安全で衛生的な食生活に寄与する能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a, 知識・技能	b, 思考・判断・表現	c, 主体的に学習に取り組む態度
食品衛生について理解するとともに、食品衛生について日常における情報の収集と整理ができる技術を身につけている。	食品衛生に関する知識に基づいた適切な判断ができ、係る問題の中の課題を設定し食品の安全を守る職業人として問題解決する能力を身につけている。	食生活の安全について、その中から食品衛生に関する課題を解決し、より安全な生活を実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 食の安全と衛生 1 食の安全を守る 2 食の安全を脅かす要因 3 食の安全確保のしくみ 4 食品衛生とは 5 食品衛生と調理師の責務 第2章 食品と微生物 1 食品中の微生物 2 食品の腐敗	<ul style="list-style-type: none"> 食品衛生の意義、課題や調理従事者の食品衛生における責務について理解する。 微生物の生育場所や増殖の仕組みを理解し、微生物による健康危害やその経済的損失を未然に防止するための基礎を学び、食品の鑑別や保管について理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
2	第3章 食品と化学物質 1 食品添加物 2 食品と重金属 3 食品と放射性物質 第5章 飲食による健康危害 1 飲食による健康危害の種類	<ul style="list-style-type: none"> 食品添加物の使用目的、種類、性質、使用基準などについて、食品衛生法による規定と実際の加工食品の表示について理解するとともに、食品添加物の使用と食生活とのかかわりについて理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
3	2 食中毒の概要 3 細菌性食中毒 4 ウイルス性食中毒 5 自然毒食中毒 6 化学性食中毒	<ul style="list-style-type: none"> 安全な食品を提供するために、食中毒統計の分類に準じた分類、食中毒の特徴、発生状況と原因物質、原因食品、症状、それらの予防法などについて理解し、衛生管理の重要性を認識する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査

科目	公衆衛生	単位	2	学年	食物科 2年
使用教科書	新 調理師養成教育全書 必修編1 食生活と健康(全国調理師養成施設協会)		副教材等	なし	

学習の到達目標	環境衛生, 母子健康, 学校保健など集団の健康と公衆衛生に関する知識を習得し, 調理師として必要な食中毒の防止など疾病の予防と健康づくりに寄与する能力と態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
集団の健康と公衆衛生などについて体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身につけている。	公衆衛生に関する課題を発見し, 疾病の予防と健康づくりを担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	疾病の予防や健康づくりを目指して自ら学び, 公衆衛生の発展に主体的かつ協働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 調理師と健康 (1) 健康の考え方 (2) 食と健康の関係 (3) 調理師の役割	・健康の概念と理想とする健康状態を成立させるために必要な食生活について学ぶ。 ・調理師法の概要と健康な食生活における調理師の役割について理解を深める。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
	第2章 食生活と疾病 (1) 疾病の動向とその予防 (2) 生活習慣病	・疾病の動向を知り, 生活習慣病の概念について学ぶことで, 調理師の果たすべき役割について知識を深める。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
2	第3章 健康づくり (1) 健康づくり対策 (2) 心の健康づくり	・我が国における健康作り対策の基本的姿勢や現状について理解し, 自己の健康づくりについて考える。	○		○	ワークシート 定期考査 課題プリント
3	第4章 調理師と食育 (1) 食育とは (2) 食育における調理師の役割	・食育について学び, 食育における調理師の役割を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント

科目	総合調理実習	単位	3単位	学年	2年
使用教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・調理理論と食文化概論(新調理師養成教育全書 4) ・調理実習(新調理師養成教育全書5) ・総合調理実習(新調理師養成教育全書6) 				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・オールガイド食品成分表 ・実習プリント 				

学習の到達目標	<p>調理で学習した調理理論と調理の基礎技術を基に、様式別調理、郷土料理、集団調理などに関する知識・技能の習得と定着及び将来の調理師としての資質の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 様式別調理と目的別の献立作成と調理の知識・技術を習得する。 2 集団調理の社会的役割と責任を理解し管理と運営、食事環境とサービスなどに関する専門的な知識と技術を習得する。 3 調理師として、食環境の変化や外食産業などの進展に対応し、食生活の充実・向上を図るとともに、創造的に調理する能力と実践的な態度を身につける。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技術	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<p>テーマに沿った献立作成ができている。</p> <p>目標に応じた技術を用い、調理実習を仕上げている。</p> <p>料理を提供する上で、食卓作法、食事環境整備や接客サービスができています。</p>	<p>材料計算、発注が適切にできています。</p> <p>材料の検収と、その結果に基づく対応が適切にできています。</p> <p>喫食者に応じた特定給食の献立作成能力を養い、食品衛生管理に留意し調理実習ができています。</p>	<p>授業中の態度が真面目で熱心である。</p> <p>常に意欲的に毎回実施される実習に参加している。</p> <p>実習時の衛生面への心構えが身に付いている。(作業衣等の準備、爪など)</p> <p>実習ノートが提出されている。</p> <p>実習時の準備片付けや総合調理実習の係分担、文化祭などにおいて自分の責任を果たせている。</p>

年間の学習計画（実習）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・様式別の日常食の実習 ・日常食献立作成 ・基本調理技術の日常食実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・大量調理の特徴、食品管理、衛生管理、各器具(炊飯器、オーブン、フライヤーなど)を取り扱い、日常食の調理を通して集団調理の基礎・基本の知識と技術を身につける。 ・集団調理における献立作成、栄養管理、食品管理、衛生管理、作業管理、経済管理など、総合的な集団調理の実習を生徒主体で行うことにより、調理師として必要な知識・技術を習得する。 ・全調協実技検定で習得をした技術を生かした調理ができる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点
2	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭食物バザー ・供応食献立作成 ・基本調理技能の日常食実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭食物バザーの売品研究を通して、売品としての調理の特徴や注意点について理解し、価格にふさわしい安全な料理を提供する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点

		<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭は日常食についての学習の成果の発表と集団調理実習の機会と提供サービスの実施をする。 ・喫食者（年齢・性別・生活活動）に応じた特定給食の献立作成能力を養い、献立作成方法を理解する。 ・全調協実技検定で習得した技術を生かした調理ができる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理献立 ・諸外国料理献立 ・基本調理技術による応用調理実習 ・試食会 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の郷土料理や諸外国料理の習得とともに日本と諸外国の郷土の食材や食文化についての理解を深める。 ・喫食者（年齢・性別・生活活動）に応じた特定給食の献立作成能力を養い、食品衛生管理に留意し調理実習ができる。 ・全調協実技検定の技術を応用した調理を実践する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点

科目	家庭基礎	単位	2単位	学年	衛生看護科 2年
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)		副教材等	カラーグラフ食品成分表(実教出版)	

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法	
1	家庭の学び方	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	ワークシート	
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	○	○	○	ワークシート 定期考査	
	2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査	
	3 これからの家庭生活と社会	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○		
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品	
				○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	

	5 これからの保育環境	・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	
	ホームプロジェクトと家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	課題レポート ホームプロジェクト発表
2	第6章 食生活をつくる					
	1 食生活の課題について考える	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	○		○	ワークシート 定期考査 実習の作品 実習の記録
	2 食事と栄養・食品	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	○	○	○	
	3 食生活の選択と安全	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	○	○	○	
	4 生涯の健康を見通した食事計画	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康により、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。	○	○	○	
	5 調理の基礎	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。また配膳やマナーに関心を持つ。	○		○	
	6 食生活の文化と知恵	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。			○	○
7 これからの食生活	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。			○	○	
2	第7章 衣生活をつくる					
	1 被服の役割を考える	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品
	2 被服を入手する	・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。” ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。	○		○	
	3 被服を管理する	・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	○		○	
	4 衣生活の文化と知恵	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。			○	○
5 これからの衣生活	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。	○	○	○		
	第8章 住生活をつくる					
	1 住生活の変遷と住居の機能	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品
			○	○	○	

	2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 		○	○	
3	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。” ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 	○	○	○	ワークシート 定期考査
	第4章 超高齢社会を生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 レポート
	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 ・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。 	○	○	○	ワークシート 定期考査 レポート
	第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 	○	○	○	ワークシート

科目	基礎看護	単位	4単位	学年	衛生看護科2学年
使用教科書	『基礎看護』(文部科学省)	副教材等	『看護学入門5 基礎看護Ⅰ』『看護学入門6 基礎看護Ⅱ』『看護学入門7 基礎看護Ⅲ』(メヂカルフレンド社) 『看護が見える vol1・vol2基礎看護技術』(メディックメディア)		

学習の到達目標	<p>(1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身につける。</p> <p>(2)看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力をつける。</p> <p>(3)基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a.知識・技術	b.考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身につけている。	看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力をつけている。	基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	【日常生活の援助】 (7)清潔と衣生活	・寝衣の条件及び寝衣交換の必要性を理解し、対象の状態に応じた寝衣の着脱方法に関する知識と技術を習得する。(寝衣交換)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(技術試験を含む) ・期末考査はバイタルサイン測定(血圧はシミュレーター使用) ・確認(小)テスト ・課題レポート ・ノート提出 ・夏休み課題 看護過程(データベースアセスメント)
	(4)排泄	・排泄に影響を及ぼす因子について理解する。またプライバシーや羞恥心への配慮の重要性を踏まえて望ましい対応を学ぶ。(床上排泄、おむつ交換、ポータブルトイレ、陰部洗浄)	○	○	○	
	【看護の共通技術】 (4)フィジカルアセスメント	・バイタルサインから得られる健康状態についての情報の重要性や影響を与える因子を学習し正確な測定技術を習得する。バイタルサインを正確に測定する技術をシミュレーターを使って確認する。(問診視診聴診打診、シミュレーターでの血圧測定)	○	○	○	
	【看護の共通技術】 (5)看護過程	・看護の実践においては、看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決することが重要であることを理解する。[情報収集・アセスメント・SOAP]	○	○	○	
	【看護の共通技術】 (3)安全管理	・起こりやすい事故事例を基に看護師の法的責任について理解する(転倒転落予防、針刺し事故予防、インシデントアクシデント、誤薬予防と対策)	○	○	○	

	<p>【日常生活の援助】 (7) 清潔と衣生活</p>	<p>・身体の清潔と健康との関連や人間にとっての清潔の意義と清潔保持の必要性を理解する。 (清拭)</p>				
2	<p>【日常生活の援助】 (7) 清潔と衣生活</p> <p>【日常生活の援助】 (3) 食事と栄養</p> <p>(4) 排泄</p> <p>【看護の共通技術】 (5) 看護過程</p>	<p>・身体の清潔と健康との関連や人間にとっての清潔の意義と清潔保持の必要性を理解する。 (手浴・足浴) (洗髪:「さっぱりさん」・洗髪車)</p> <p>・対象の状態に応じて安全と安楽に配慮した食事の援助を行うための知識と技術を習得する。(経管栄養)</p> <p>・排泄に影響を及ぼす因子について理解する。またプライバシーや羞恥心への配慮の重要性を踏まえて望ましい対応を学ぶ。(浣腸)</p> <p>・看護の実践において看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決することが重要であることを理解する。〔関連図・問題リスト・計画・実施・評価〕</p>	○	○	○	<p>・ 定期考査 (技術試験を含む) 期末考査 足浴 (主1人で行う)</p> <p>・ 確認(小)テスト</p> <p>・ 課題レポート</p> <p>・ ノート提出</p> <p>・ 冬休み課題 看護過程 (計画・立案)</p>
3	<p>【看護の共通技術】 (5) 看護過程</p> <p>○看護臨地実習 オリエンテーション</p> <p>【看護の共通技術】 (2) 感染予防</p> <p>【診療に伴う援助】 (1) 呼吸・循環・体温調整</p> <p>【診療に伴う援助】 (2) 与薬</p> <p>【日常生活の援助】 (4) 排泄</p>	<p>・ 看護の実践においては、看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決することが重要であることを理解する。〔計画・実施・評価〕</p> <p>薩摩川内市消防局 上級救急救命講習 (オリエンテーション、WEB 講習2時間)</p> <p>・ 感染予防の原則や看護者の役割について理解する。滅菌と消毒の違い及び感染経路を遮断する方法について必要な知識と技術を習得する。 (消毒・滅菌法、無菌操作、滅菌手袋、感染性廃棄物の取扱)</p> <p>・ フィジカルアセスメントの学習を基に罨法の種類と目的について理解し、罨法を行うための知識と技術を習得する。(温罨法・冷罨法)</p> <p>・ 一連の与薬の過程と、看護者の役割について理解し安全で正確な与薬方法や薬物の管理・取り扱いについて考察する。(内服薬実習)</p> <p>・ 排泄に影響を及ぼす因子について理解する。またプライバシーや羞恥心への配慮の重要性を踏まえて望ましい対応を学ぶ。(導尿)</p>	○	○	○	<p>・ 定期考査 (技術試験を含む) 学年末考査 無菌操作</p> <p>・ 確認(小)テスト</p> <p>・ 課題レポート</p> <p>・ ノート提出</p> <p>・ 自宅学習期間課題 看護過程(事例①) アセスメント・関連図・計画</p> <p>・ 春休み課題 看護過程(事例②) (事例での演習を行い、問題解決のための基礎的な思考力を身につける)</p>

科目	疾病の成り立ちと回復の促進	単位	3単位	学年	衛生看護科 2学年
使用教科書	看護学入門3 疾病の成り立ち(メヂカルフレンド社) 看護学入門7 基礎看護Ⅲ 特論治療法概論(メヂカルフレンド社) 看護学入門2 栄養 薬理(メヂカルフレンド社)	副教材等		看護学生のための検査事典 看護学生のためのくすり事典 からだの地図帳	

学習の到達目標	<p>(1) 疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。</p> <p>(2) 疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技術	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	疾病の成り立ちと回復の促進の側面から科学的な思考を深め、課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	疾病の成り立ち、それに関連する検査や薬物に関して関心を持ち、看護につなげようと主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 疾病の原因と生体の回復 ア 疾病の予防・早期発見 イ 疾病の原因 ウ 生体の回復	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育、予防接種、健康診断等を取り扱う。 病因として、内因と外因を扱う。 疾病や障害の経過と生体の回復過程、回復に影響する因子について取り扱う。また、各経過と因子による影響について扱う。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 各課題プリント 各確認(小)テスト ノート提出 定期考査 授業態度
	2 基本的な病因 ア 循環障害 イ 炎症 ウ 代謝障害 エ 遺伝と先天異常 オ 免疫異常	<ul style="list-style-type: none"> 充血、うっ血、塞栓、浮腫などを取り上げ、局所の障害と全身の障害との違いなどを扱う。 組織や細胞、全身に与える影響、急性と慢性の違いなどを扱う。 感染症を起こす主な病原微生物を取り 	○	○	○	

	カ 腫瘍 キ 感染	<p>上げ、形態、感染経路、症状、潜伏期などを扱う。</p> <p>※遺伝と先天異常は小児看護で取り扱う。</p> <p>感染は健康支援と社会保障制度で取り扱う。</p>				
2	3 疾病の診断過程と治療 ア 疾病の診断過程 イ 疾病と臨床検査 ウ 主な治療法	<p>・病歴、診察、検査などの結果を踏まえ、健康問題の原因を明らかにし、対象が診察・検査を受け、治療に参加することの重要性について取り扱う。</p> <p>・検体検査、生理機能検査、放射線検査、MRI 検査、超音波検査、内視鏡検査などを扱う。</p> <p>・外科療法、薬物療法、輸血、運動療法、食事療法などを扱い看護の役割を考察させる。</p>	○	○	○	<p>・各課題プリント</p> <p>・各確認(小)テスト</p> <p>・ノート提出</p> <p>・定期考査</p> <p>・授業態度</p>
	4 各機能の障害 ア 呼吸機能の障害 イ 循環機能の障害 ウ 栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害 エ 内部環境調節機能の障害 オ 造血機能の障害 カ 免疫機能の障害 キ、神経機能の障害 ク、運動機能の障害	<p>各機能の障害について取り扱う。</p> <p>・気道、肺の炎症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など</p> <p>・虚血性心疾患、不整脈</p> <p>※高血圧は健康支援と社会保障制度で取り扱う。</p> <p>・齲歯、歯周病、胃潰瘍、胃がん、肝硬変、肝臓がん</p> <p>※糖尿病、高脂血症は健康支援と社会保障制度で取り扱う。</p> <p>・下垂体の疾患(尿崩症)、甲状腺の疾患(甲状腺がん、クッシング症候群、橋本病)</p> <p>・貧血、白血球減少症</p> <p>・自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下など</p> <p>※小児看護で取り扱う</p> <p>・脳梗塞、脳出血、頭蓋内圧亢進に伴う症状 メニエール病 緑内障、白内障 網膜剥離</p> <p>・骨折、脱臼、捻挫、変形性関節症、リウ</p>	○	○	○	

	<p>ケ、排泄機能の障害</p> <p>コ、生殖機能の障害</p> <p>サ、精神機能の障害</p>	<p>マチ ※大腿骨頸部骨折を老年看護で扱う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎臓病(腎炎)、尿路の障害(尿路結石) ・前立腺肥大症 <p>※子宮筋腫、乳腺の疾患は母性看護で取り扱う</p> <p>※せん妄、精神・行動の異常は老年看護で取り扱う。統合失調症は健康支援と社会保障制度</p>				
3	<p>5 疾病と薬物</p> <p>ア 薬物の作用</p> <p>イ 薬物の生体の反応</p> <p>ウ 薬物療法</p> <p>エ 薬物による健康被害</p>	<p>主な薬物を取り上げ、特徴や作用、取り扱いについて扱う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬理作用について取り扱う ・薬物の投与経路と特徴、生体内における動態を取り扱う ・不適切な投与が医療事故になる事例を取り上げ、様々な視点で考察させ看護師の役割の重要性について理解させる。 ・医薬品等によって起こった健康被害を取り扱う <p>※基礎看護で取り扱う</p> <p>各疾病の薬物療法で関連のある薬物を取り上げ、理解を深める。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度

科目	健康支援と社会保障制度	単位	2単位	学年	衛生看護科2学年
使用教科書	『看護学入門4保健医療福祉のしくみ』(メヂカルフレンド社)		副教材等		

学習の到達目標	<p>(1)健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2)健康支援と社会保障制度に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)健康支援と社会保障制度について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活向上に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
社会保障制度・公衆衛生について理解するとともに、関連する技術を身につけている。	健康支援としての公衆衛生の現状について基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。 社会保障制度の特徴と概要を踏まえ、看護への活用について考えている。	健康支援としての公衆衛生の現状について自ら学び、対象となる人々による健康管理を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 社会保障制度について自ら学び、対象となる人々の生活を向上し、自律した生活が送れるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 公衆衛生とは (1)公衆衛生の基本 (第1章公衆衛生と健康)	(1)基本的人権としての生存権・健康に関する概念を基に、生活環境や生活行動と健康への影響、疾病の予防と健康の保持増進への支援について理解する。	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 各課題プリント 各確認(小)テスト ノート提出 定期考査 授業態度
	(2)生活者の健康増進	(2)生活習慣病の現状を知り、人々が健康管理を行うために必要な支援について理解する。労働が健康に及ぼす影響について関連する法規とともに理解する。	○		○	
	(3)生活環境と健康	※疾病の成り立ちと回復の促進(高血圧, 高脂血症, 糖尿病)を含む。 (3)人間の生活と環境の相互作用につ	○	○	○	

	(第2章環境と生体)	いて、関連する法規とともに学習し、環境衛生や保全、食品衛生について考える。				
2	(4)感染症と対策 (第3章疾病の予防)	(4)感染症について、その成立要因、現状、予防のための対策(予防接種など)、関連する法規について理解する。 ※疾病の成り立ちと回復の促進(感染)を含む。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
	2 社会保障制度 (1)社会保障制度の基本(第3章社会福祉制度と実施体制) (2)保健に関する制度(第5章保健活動)	(1)社会保障制度の変遷、目的及び制度を構成する社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療、公衆衛生について理解する。 (2)地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、高齢者保健、産業保健等の活動についてその目的及び概要を看護活動と関連づけて理解する。 ※疾病の成り立ちと回復の促進(統合失調症)を含む。	○	○	○	
3	(3)医療に関する制度	(3)医療に関する医事法規、薬事法規、関連法規についてその目的及び概要を看護活動と関連づけて理解する。	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題プリント ・各確認(小)テスト ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
	(4)福祉に関する制度 (第3章社会福祉制度と実施体制)	(4)社会保険、社会福祉に関わる法規、公的扶助と関連する法規の変遷、目的及び概要、関連機関等を看護活動と関連づけて理解する。	○	○	○	

()内はメヂカルフレンド社の表記

科目	老年看護	単位	1単位	学年	衛生看護科2学年
使用教科書	『看護学入門 11 老年看護』 (メヂカルフレンド社)		副教材等	症状別看護ケア関連図(中央法規) 疾患別看護ケア関連図(中央法規)	

学習の到達目標	<p>(1) 老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 高齢者の看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 老年看護について、よりよい看護実践を目指して自ら学び、日常生活の援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a.知識・技術	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 診療を受ける高齢者の各病期特徴を理解し、関連する技術を身に付けている。 高齢者に多い健康障害と看護について理解し、関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 診療を受ける高齢者の病期や高齢者に多い健康障害と看護について、多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 診療を受ける高齢者の各病期の看護や高齢者に多い健康障害とその看護について自ら学び、健康の保持増進または看取りの支援について主体的かつ協働的に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 診療を受ける高齢者の看護 ア 急性期 イ 慢性期 ウ 終末期	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の各病期の特徴、病期ごとに起こりやすい多様な課題について理解する。 高齢者の安全・安楽を守り、当事者の意思を尊重し、地域連携を含めた看護を実践できるようにする。 (小児看護で取り扱う) 	○	○	○	各課題プリント 授業態度 小テスト 考査試験 ノート提出
	2 高齢者に多い健康障害と看護 ア 感染症	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に多い健康障害とその看護について学び、高齢者の健康障害と生活状況に応じた看護を実践できる。 肺結核、疥癬などについて、高齢者の免疫機能や生活状況、疾患の要因や症状、検査・治療の理解を基に、その予防や発症時の再発予防における看護を理解する。 				

		・高齢者施設実習場にて「視覚障害」と「ガイドヘルプ」についての学習を深め、機能の状態に応じたコミュニケーション方法について学ぶ。				
2	イ 骨折	・脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、大腿骨頸部骨折などについて、疾患の要因や症状、検査・治療の理解を基に、手術を受ける高齢者の看護、生活不活発病等の合併症の予防やリハビリテーション看護について理解する。	○	○	○	各課題プリント 授業態度 小テスト 考査試験 ノート提出
	ウ パーキンソン症候群	・高齢者に多くみられるパーキンソン症候群の種類や原因、症状、検査、治療に関する理解を基に、日常生活の援助、リハビリテーション、適切な服薬管理などの看護と関連づけて理解する。				
	エ 認知症	・高齢者の認知症の種類や原因、症状、検査、生活への影響に関する理解を基に、家族を含めた日常生活の援助及び高齢者の権利擁護、虐待防止、レスパイトケア等と関連づけて理解する。				
3	オ うつ	・高齢者のうつ病の要因や症状、生活への影響、治療に関する理解を基に家族を含めた日常生活の過ごし方、睡眠・休息の確保、自殺予防、服薬管理等の看護と関連して理解する。	○	○	○	各課題プリント 授業態度 小テスト 考査試験 ノート提出
	カ せん妄	・高齢者のせん妄の要因や症状、生活への影響、治療に関する理解を基に、家族を含めた環境整備、心身の安静・休息、刺激の除去、事故防止等の看護と関連づけて理解する。				

科目	看護臨地実習	単位	3単位	学年	衛生看護科2学年
使用教科書	専門教科の全教科書		副教材等		

学習の到達目標	<p>(1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a.知識・技術	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 臨地における看護について、対象にどのような援助が必要かを理解し、基礎的・基本的な知識・技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨地において、対象の特性やよりよい日常生活の援助について思考を深め、対象に安全・安楽なケアを提供できるように状況に応じて判断し、適切に表現している。 実習目標を明確に持ち、指導者に適切に報告、相談をしている。 臨地での実習において思考したり判断したりしたことを、毎日、実習日誌に記録し、リフレクションできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象に対して関心を寄せ、対象を尊重した態度で接している。 見学や援助参加の希望を申し出て、主体的に取り組もうとしている。 臨地における看護実践の基礎について自ら学び、よりよい看護を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
	1 基礎看護臨地実習 【高齢者施設】					
	(1) 施設の機能と看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設の機能と看護の役割及び療養環境について理解し、様々な専門職が独自の専門的役割を果たし、互いの連携のもとに援助が支えられていることを学ぶ。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 実習日誌 実習後終了レポートの提出 観察記録 環境シート
	(2) 対象の理解	<ul style="list-style-type: none"> 看護の対象者を生活者として幅広くとらえ、身体的・精神的な変化及び対象者の家庭的・社会的な背景など、対象について統合的に理解を深める。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ループリック評価表
	(3) 看護におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 対象と看護者の信頼関係を基盤とした円滑なコミュニケーションに影響を及ぼす要因と信頼関係 	○	○	○	

		を確立させるための看護者のかかわり方や態度について、臨地での体験を通して学ぶ。				
	(4) 日常生活の援助	・対象の安全・安楽に配慮し、自立を目指した日常生活の援助の方法について、体験を通して学ぶ。	○	○	○	
	2 基礎看護臨地実習					・事前学習
	【病院】					・実習日誌
	(1) 施設の機能と看護の役割	・病院施設の機能と看護の役割及び療養環境について理解し、様々な専門職が独自の専門的役割を果たし、互いの連携のもとに援助が支えられていることを学ぶ。	○	○	○	・実習後終了レポートの提出
	(2) 対象の理解	・疾病・障害や治療方法だけではなく、それらによる身体的、精神的、社会的な影響を捉え、統合的に把握する。 ・多角的な情報を収集し、分析・評価する必要があることを実践的、体験的な学習を通して学ぶ。	○	○	○	・患者記録 ・データベース ・使用薬物 ・検査データ ・観察記録 ・環境シート
	(3) 看護におけるコミュニケーション	・対象と看護者の信頼関係を基盤とした円滑なコミュニケーションに影響を及ぼす要因と信頼関係を確立させるための看護者のかかわり方や態度について、臨地での体験を通して学ぶ。	○	○	○	・振り返りシート ・ループリック評価表
	(4) 日常生活の援助	・対象の基本的欲求の充足状況や日常生活行動の自立の程度を踏まえ、援助の選択と実施について見学を通して学ぶ。 ・対象の安全・安楽に配慮し、自立を目指した日常生活の援助の方法について、見学、体験を通して学ぶ。	○	○	○	
	2 基礎看護臨地実習					・実習日誌
	【消防局】					・実習後終了レポートの提出
	(1) 救命救急処置(上級救命講習受講)	・救命救急処置の異議及び救命救急処置における看護者の役割を学ぶ。 ・心停止・呼吸停止・溺水・急性中毒などの一次救命処置の方法、出血・熱傷・骨折・捻挫・脱臼などの外傷の手当て及び傷病者の移送について学ぶ。(消防局)	○	○	○	
	(2) 災害看護	・災害の種類とその特徴の理解について、実践的・体験的な学習活動を通して習得し、看護の統合と実践への導入とする。(防災センター)	○	○	○	

入学年度			令和7年度入学生						備考
学年			1	2		3		計	
教科	科目	標準単位		服飾文化 類型	保育教養 類型	服飾文化 類型	保育教養 類型	服飾文化 類型	保育教養 類型
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎2	2				2	
		言語文化	◎2	2				2	
		文学国語	4		2		2	4	
	地理歴史	地理総合	◎2				2	2	
		歴史総合	◎2		2			2	
	公民	公共	◎2	2				2	
	数学	数学Ⅰ	◎3	3					3
		数学A	2		2			2	
		数学B	2				2	2	
	理科	科学と人間生活	◎2	2					2
		化学基礎	2				2	2	
		生物基礎	◎2		2			2	
	保健体育	体育	◎7~8	2	2		3	7	
		保健	◎2	1	1			2	
	芸術	音楽Ⅰ	○2		ㄗ			ㄗ	「芸術Ⅰ」を履修後に同科目のⅡを履修する
		音楽Ⅱ	2				ㄗ	ㄗ	
		美術Ⅰ	○2		┃2			┃2	
		美術Ⅱ	2				┃2	┃2	
		書道Ⅰ	○2		┃			┃	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	3					3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4		2	6	
家庭	家庭総合	◎4	4				4		
情報	情報Ⅰ	2						「情報Ⅰ」2単位は「生活産業情報」で代替	
科目単位数計			21	17		15	53		
教科	科目	標準単位							
主として専門学科において開設される各教科・科目	家庭	生活産業基礎	◇2	2				2	
		課題研究	◎◇2~4			1	2	3	
		生活産業情報	◎2~4	2		3		5	
		消費生活	2~4				2	2	
		保育基礎	2~6	2		2		2	6
		保育実践	2~8			4		6	10
		ファッション造形基礎	2~6	2	4			6	2
		ファッション造形	4~10				8	8	
		服飾手芸	2~4		2			2	
		フードデザイン	2~6			2		2	
		*生活文化	2~6				2	2	*は学校設定科目
科目単位数計			8	12		14	34		
総探	総合的な探究の時間	3~6						「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替	
合計			29	29		29	87		
特活	ホームルーム活動		1	1		1	3		
週当たり総時数			30	30		30	90		

入学年度			令和7年度入学生				備考
学 年			1	2	3	計	
教 科	科 目	標準 単位					
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2			2	2
		歴史総合	◎2		2		2
	公 民	公 共	◎2	2			2
	数 学	数 学 I	◎3	3			3
		数 学 A	2		2		2
		数 学 B	2			2	2
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2
		化学基礎	2			2	2
		生物基礎	◎2		2		2
	保健体育	体 育	◎7~8	2	2	3	7
		保 健	◎2	1			1
	芸 術	音 楽 I	○2	ㄗ			ㄗ
		美 術 I	○2	ㄗ2			ㄗ2
		書 道 I	○2	ㄗ			ㄗ
	外 国 語	英語コミュニケーション I	◎3	3			3
英語コミュニケーション II		4		2	4	6	
家 庭	家庭基礎	◎2	2			2	
情 報	情報I	2					
科目単位数計			21	12	15	48	
教科	科 目	標準 単位					
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	生活産業基礎	◇2	2			2	
	課題研究	◎◇2~4		1	3	4	
	生活産業情報	◎2~4		2		2	
	食文化	1~2			1	1	
	調理	14	5	5	4	14	
	栄養	3	1	1	1	3	
	食品	2		1	1	2	
	食品衛生	5		2	3	5	
	公衆衛生	◎3		2	1	3	
総合調理実習	3		3		3		
科目単位数計			8	17	14	39	
総探	総合的な探究の時間	3~6					
合 計			29	29	29	87	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			30	30	30	90	

「保健」1単位は「公衆衛生」で代替

「情報I」2単位は「生活産業情報」で代替

教育内容「調理理論と食文化概論」に対応
 教育内容「調理理論と食文化概論」「調理実習」に対応
 教育内容「食品と栄養の特性」に対応
 教育内容「食品と栄養の特性」に対応
 教育内容「食品の安全と衛生」に対応
 教育内容「食生活と健康」に対応

「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替

入学年度			令和7年度入学				備考
学年			1	2	3	計	
教科	科目	標準単位					
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2			2	2
		歴史総合	◎2		2		2
	公民	公共	◎2	2			2
	数学	数学Ⅰ	◎3	3			3
		数学A	2		2		2
		数学B	2			2	2
	理科	科学と人間生活	◎2	2			2
		化学基礎	2			2	2
		生物基礎	◎2		2		2
	保健体育	体育	◎7～8	2	2	3	7
		保健	◎2	1			1
	芸術	音楽Ⅰ	○2	㇀			㇀
		美術Ⅰ	○2	㇀2			㇀2
		書道Ⅰ	○2	㇀			㇀
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	3			3
英語コミュニケーションⅡ		4		4	2	6	
家庭	家庭基礎	◎2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2					
科目単位数計			19	16	13	48	
教科	科目	標準単位					
主として専門学科において開設される各教科・科目	看護	基礎看護	◇2～11	4	4		8
		人体の構造と機能	◎2～7	4			4
		疾病の成り立ちと回復の促進	2～8		3		3
		健康支援と社会保障制度	2～7		2		2
		成人看護	2～6			2	2
		老年看護	2～4	1	1		2
		小児看護	2～4			2	2
		母性看護	2～4			2	2
		在宅看護	2～4			2	2
		看護臨地実習	◎◇2～21	1	3	6	10
	看護情報	◎2～4			2	2	
科目単位数計			10	13	16	39	
総探	総合的な探究の時間	3～6					
合計			29	29	29	87	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			30	30	30	90	

「保健」1単位は「人体の構造と機能」で代替

「情報Ⅰ」2単位は「看護情報」で代替

「総合的な探究の時間」は「看護臨地実習」で代替